

山本天文台に保存されていた望遠鏡の模型

大西 道一

山本一清博士は山本天文台の観測室の下に博物館のように天文学に関する実物・模型などの資料を収集保存されていた。いろんな分野があるがその一つとして望遠鏡の模型がある。木製の望遠鏡模型は以下のものがある。模型には付箋を付け下記の様に記入されていた。

1. キルソン山天文台、六十吋反射鏡 模型
2. キ”クトリヤ天文台、七十二吋反射鏡 模型
3. キルソン山天文台、百吋反射鏡 模型
4. レプソルド式子午環 模型
5. ワンシャフ式天頂儀 模型
6. 子午儀 模型

これらの模型は材木を加工し一部金属を使用しているが、白木の儘で塗装をしていない。今後縮尺などの調査が望まれる。

東亜天文学会の広島総会(1956年5月26～27日)の26日の表彰式で長谷川一郎氏、本田実氏及び三谷哲康氏に表彰記念品として望遠鏡の模型を贈られている。この模型はヴィクトリア72インチ反射鏡であるが上記の模型よりより細部に手を加えた模型で木製の本体に銀色の塗装をしたものである。

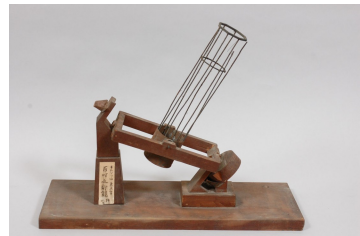
なお、翌27日は山本一清会長の第67回誕生祝賀会として午餐会があり寄せ書きが贈呈された。この寄せ書きは今回の資料倉庫に現存している。



キルソン山天文台六十吋反射鏡



キ”クトリヤ天文台七十二吋反射鏡



キルソン山天文台百吋反射鏡



レプソルド式子午環



ワンシャフ式天頂儀



子午儀

178 1956年7月

東亜天文学会の広島総会の報告

予告の如く、去る5月26〜27日、広島市の視野器館でO. A. A総会を開いた。まづ26日14時、本辺理事長が議長席に就き、山本会長の開会挨拶あり、次いで1955〜56年度の事務(庶務と会計)報告と研究機関に関する報告あり。それから、表彰式に移り、長谷川一郎氏のベタイン彗星に関する発見研究業績について山本会長の演説と記念品の贈呈あり。満この機会に、昨年名古屋の総会で表彰された本田実、三谷哲博両氏へも記念品が贈られた。

次に、役員の改選に移り、下記の如く決定した。

会長 山本一清氏、副会長 宮本正太郎氏と宮森作造氏、理事 木辺成豊氏(長)、小嶺孝二郎氏、津田隆之氏、佐伯恒夫氏、村上忠敬氏、村山定男氏、高城武夫氏、福井実信氏、金子功氏。

それから山本博士の講演“太陽系の経度について”があり、更に少彦後、小嶺観測部長が逐見席につき、下記の研究発表があった。

1. 火星に発生した変化について……………佐伯恒夫
新しい観測はO. A. Aの火星観測ではスライファ以前に発見していた。新しい気流の帯が出来て、そこに植物が生じているのではなかろうかと考えられる。
2. 火星に関する予報……………大西道一
火星の軌道にあたってはグラフを書いておくに便利。火星の高度、中央経緯度が目によってどう変化するかをグラフで示す。工業グラフを使用して詳しく書けば精度も上る等である。
3. 木星大赤斑の経緯変化について……………佐藤健
大赤斑は南緯帯流の速度の変化の影響を受けているらしい。大赤斑経緯度の減少率が大きい時、南赤道帯の速度は速、赤道の傾角から見ても、近いうち南北赤道帯速度は逆転するのではあるまいか?
4. 白鳥座流星群について……………小嶺孝二郎
平均7年の周期で顕著に出現している。過去の資料の整理、軌道計算よりこの流星群は群星(傾斜が比較的大)系と考えるのが適当。輻射点が分散しているのは、昇交点付近で木星軌道に近い為、その傾斜による。
5. 流星の光度函数……………河野健三
1950〜1955年の自己観測した800個の流星データを整理して $x=2.4$ の値を得た。
6. 流星の古記録について……………長谷川一郎
7. 太陽黒点の標準曲線について……………村上忠敬
これまでのものから一つのノーマル・カ12を考えてみる。
U. T. 比とMaximum Relative Numberの関係がグラフに変わるとウィーン線の輻射の規則に似たグラフになる。
8. 太陽黒点の理想曲線について……………荒木安司

天界375 東亜天文学会の広島総会の報告 177

9. 黒点周期の変動について……………荒木安司
10. 太陽黒点の今後の予報……………石川真知子

この後、村上忠敬氏が議長となり、交歓懇談会が開かれ、1956年終った。翌27日15時、村上忠敬氏を議長となり山本会長に第4回誕生祝賀の午宴会あり、16時よりは一同打ち揃い市内遊覧に参加した。

更に28日は午前中 有志者の宮島観光の催しあり、午後4時より中川新聞社講堂で公開講演会が次ぎの如く開かれた。

山本一清氏、 “太陽と太陽系”
佐伯恒夫氏、 “火星の探査”

尚、この機会に広島女学院(26日山本氏)、Y's men's Club(26日山本氏)、広島女子短大(26日山本氏)、北瀬山学園(26日木辺氏)、大竹高校(28日山本小嶺氏)、大野町(28日佐伯氏、呉市(29日佐伯氏)、三次市(29日山本小嶺氏)の各所講演会が開かれ、又天体観望会も催された。

今回の新会合は広島県及び広島市の教育委員会や、広島天文愛好会や、中川新聞社の協力が得られ、又、広島大学の竹山晴夫、村上忠敬院教授の適切な援助が得られたのは感謝であった。(N)

編輯室より 本号は臨時に34頁の特報です。次号にも太陽、流星、火球等々の原稿を用意してゐます。各支部からの報告も期待します。(L)

東亜天文学会広島総会の様子を伝える『天界』の記事